



けがの手当てをしよう！家庭看護1級に挑戦！

生活科学科では、以下の表のように、保育技術検定（以下、保育検定）の合格を目標に日々の授業を頑張っています！そして、これまでに紹介したように、保育検定には「造形表現」・「言語表現」・「家庭看護」・「音楽リズム表現」の4種類があります。

その内、家庭看護では、だっこや授乳、検温といった乳児の世話から始まり、乳幼児の発達段階・心身の状態に応じた衣服の着脱やおむつ交換、けがの手当てなどの基本的技術を身につけることを目的としています。

そして、今回は、生活福祉コース・保育コースの3年生が保育検定の家庭看護1級合格に向けて取り組んでいる実習の様子をお伝えします。



学年	合格を目標とする検定名
生活福祉コース2年生全員・保育コース2年生希望者	家庭看護4、3級
生活福祉コース3年生全員・保育コース3年生希望者	家庭看護2、1級



家庭看護1級では、幼児の発達段階や心身の状態に応じた、けがの手当てや適切な声のかけ方などの基本的技術を身につけることを目標にしています。生徒を幼児に見立てて、骨折が疑われるけがや頭のけがなど指定されたけがの手当てを行います。また、乳幼児のけがや病気に関する基本的知識も学んでいきます。



けがをしている幼児を想定しているので、包帯や添え木、三角巾などを使って手当てをしましょう。その際、幼児の不安を取り除くための声かけや、痛みの確認の声かけなど、幼児に寄り添った声かけも大切です。何度も練習して、全員合格を目指しましょう！

